

水彩絵具と紙

水彩画家と紙の相性

水彩画をよく描く人は、支持体である紙へのこだわりが強いようです。市販されている水彩紙は絵具のしみ込みを抑えるためにサイズ剤が添加され、紙の水分吸収度が調整されています。しかし、水彩紙それぞれにサイズ剤の種類や量が異なり、紙の厚さも違うため、絵具のじみ方は大きく異なっています。自分の画風や技法に適した支持体をつくるために、紙をすいて自作するという手もありますが、それでは大変です。ここでは、ホルベイン水彩メディウム・シリーズの「オックスゴール」と「サイジングリキッド」を使って、じみをコントロールする方法をご紹介します。

紙のはじきを抑えるオックスゴール

水彩紙の表面は、基本的に水をはじく性質を持っています。特にサイズの強い紙では、絵具がはじかれてしまいます。絵具に数滴のオックスゴールを加えることによって、紙のはじきが抑えられます。オックスゴールは動物の胆汁を主成分とする界面活性剤の一種で、絵具の表面張力を減少させる力があるからです。例えば、紙に水を張り、その上からオックスゴールを数滴たらしたコバルトブルーの水彩絵具を塗ると、紙にしみるように青が広がっていきます。空などの表現に用いると、ぼかし効果が活きた色面ができます。また、脂がついた手で画用紙に触ると、その部分の絵具のりが悪くなります。そんな場合、オックスゴールを混ぜて塗るとのりが回復します。オックスゴールは、基本的にパレットの

上に出した絵具に混ぜて使います。描画用の筆洗器など大量の水に溶かして使うと、濃度が低くなりすぎて効果が出ません。

しみ込みを抑えるサイジングリキッド

サイジングリキッドは、紙のしみ込みを抑える「どうさ液」です。じみの強い紙に事前に塗布することで、水彩絵具のしみ込みを抑え、じみにくくします。等量〜2倍の水で薄めて刷毛などで紙に塗布し、一日程度乾燥させてから絵具を塗るようにします。薄める水の量が少ないほど、効果が高くなります。サイジングリキッドがじみを抑えるのは、紙の繊維の間にある小さな隙間を埋めるからです。大量に塗るとのりが悪くなって、絵具が剥落する恐れがあるので注意が必要です。また、吸収性のある紙は、濡れ色と乾き色に差が生じやすくなります。絵具が乾燥すると明度が高くなるので、あらかじめ乾き色の発色を確かめてから、使用する絵具を選択する必要があります。それに対して、非吸収性の高い紙は差が少ないので、基本的に濡れ色と乾き色は同じと考えて塗ることができます。サイジングリキッドで紙の吸収性を再調整すると、もとの水彩紙の場合と濡れ色、乾き色が違ってきます。制作にかかる前に、濡れ色と乾き色の差を確かめておくのがよいでしょう。

*サイズ剤というのはじみ止めに使われる充填剤のこと。どうさ液とも呼ばれる。パルプを原料とする紙はそのままではじみが生じやすいため、製紙工程でサイズ剤が用いられる。



オックスゴール
〈界面活性剤〉



サイジングリキッド
〈どうさ液・じみ止め〉

※参考資料:中央公論美術出版「絵具の科学」「絵具材料ハンドブック」など

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具